

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1291200168		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム松戸上本郷		
所在地	千葉県松戸市上本郷2818		
自己評価作成日	平成25年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404
訪問調査日	平成25年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別レクに力を入れています。その人が行きたいところ・各行事の中でも個別で外出に行きその人に合った個別レクを行っています。その一瞬一瞬に訴えた言葉を実現し実行に移しています。目の前に公園があります、出来る限り散歩や子供達とふれあい生活しています。前回の外部評価で五感刺激を取り組んでは？とアドバイスを頂いたこともあり、上記の内容に力をいれアピールしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の隣に災害時等に避難ができるほどの大きな公園が有り、道を隔てた向こう側には幼稚園が有る。事業所はグループホーム専用に設計された施設で、災害時に2階から避難する滑り台式のシューターやスプリンクラー、煙感知器など最新のものを備えている。事業所では3つの理念を毎日唱和し、職員が携帯するクレドカードには「3つの力」「5つの習慣」「ケアの信条」が書かれ、これらを全体会議やユニット会議で確認し、日々のケアに反映させるべく一体となって取り組んでいる。また近隣の子供たちがホーム内に来て、入居者と遊んでいる姿は非常に微笑ましい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が事業所理念を把握しており、毎日引き継ぎの際に唱和をしています。 新人の方に関してはOJTノートを活用してスキルアップを行っております。	3つの理念を毎日唱和し事業所全体に浸透するよう努めている。新人についてはOJTノートに「目標・今日学んだ事」を記入し、担当者・ホーム長からコメントを書き、目標が達成できたかを毎日確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加しています。 近所の神社のお参りやお祭りや運動会などにも定期的に参加をしています。	自治会の行事及び班長としてゴミゼロ運動やゴミ出し当番に入居者と共に参加する等、日常的に近隣との交流に努めている。保育園や幼稚園の行事にも参加しているため、子供たちがホームに来て入居者と遊んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会や民生委員に参加しています。最近ではホームに尋ねる方が多くです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、地域包括センター、ご家族様等で2ヶ月に1回開催しております。 運営推進会議では入居者様状況、行事報告、事故報告をし意向や意見を話し合いサービスの向上に努めております。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、入居者やスタッフの状況に加え、ひな祭り、旅行、個別レク、バレンタイン、誕生日会等の活動を報告し、活発な意見交換がされている。結果は市役所へ写真を付け報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所へ訪問したり、随時報告・電話連絡にてより良い関係を築けるように心がけています。	市役所を訪問し、転居された方や入居相談を行ったり、食い違い防止のため、直接会って提出物の確認をしたりして、より密接な関係を構築できるよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあります。 身体拘束にしないように出来る限り施錠しないように努めております。	「身体拘束排除宣言」を目に付き易い所に掲示し、常に意識を高めている。事業所内でMCSマニュアル研修を実施後、経営者が委員会で他の事業所も含む研修をし、組織全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを通じて、虐待の防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合い、管理者は知識として持ち合わせるように日々学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解納得を図っています。金銭面に関しては前もって説明を充分に行っています。退居時のサポートも行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホーム便りを担当職員が写真を載せて日頃の様子や行事の様子などを手紙の様に書いてご家族様に郵送しています。ご家族様の意見の中でも掃除に関する指摘があり、こまめに清掃を行っています。食事のメニューも入居者様・ご家族様が分かりやすい様に提示しています。	ホーム便りに担当職員の写真も載せ、各家族へ郵送しているため、家族会でも気軽に意見要望が言える雰囲気が整っている。毎年行う家族アンケートは、本社からフィードバックされ、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議やユニット会議や管理者とユニットリーダーの会議を開催している。	毎月行われるユニット会議では、主に入居者を中心とした業務改善を話し合い、運営に反映している。リーダー会議では、人事問題やスタッフの悩み、要望を取り上げ、職員が業務を効率よく推進できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務管理を徹底しており、職員と定期的に面談を行っています。意見や悩みなども聴きながら職員の評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外に研修に力を入れ、個々にあった研修に行ってもらい、スキルアップできる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会・集団指導・セミナーなどの回覧し希望者には参加出来るようにバックアップしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等を聴き細かくアセスメントし、ニーズにあったケアプランの作成をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安なこと、要望はケアプラン作成前に意向・意見を聞きながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話をお聞きし、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様との連携の大切さ、ご協力の必要性を充分説明し、より良い関係を築けるように何事も考え・悩みながら本人の立場になり、支えています。また、当たり前のことが当たり前に出きる様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連携の大切さ、ご協力の必要性を充分説明し、より良い関係を築けるように何事も考え・悩みながら本人の立場になり、支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との手紙・電話・家に行くなど途切れないように支援しています。	散歩時に家に立ち寄る、亀戸まで外国映画を見に行く、時にはDVDを借り映画鑑賞をする。また家族と共に誕生会のイベントの開催や、馴染みの人への電話、年賀状等、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の思いを大切にし、孤立せず、寄り添い支えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の病院を探したり、転居先が決まっても定期的に連絡をして相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議・担当者カンファレンスを行い今必要なことや困難な方の関わりを会議にて意見交換しています。単独外出に関しても本人の意向に応じて検証しています。	日常生活の会話や行動・表情などから一人ひとりの思いや意向を把握し、ケースカンファレンスやユニット会議でケアが適切かを確認している。また本人の希望を尊重し帰宅の見守りや、映画の鑑賞に付き添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様に聞きながらアセスメントを行っています。(センター方式)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活リズム・スタイルを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日日勤と夜勤者が短期目標の実施を記録している。6ヶ月に1回センター方式でアセスメントを行っている。なんでも試すことでチームとしての取り組みによる介護計画を作成している。	利用者の状況や意向については適宜モニタリングして記録している。記録はサービス担当者会議や介護計画の見直しの際に活用される。また計画見直しに際しては家族の思いや意向も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の水分表・排泄表・健康管理表・ケア日報・個人記録で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で話し合い、困難な状況になっても最後まであきらめず、あらゆる方法で柔軟な支援やサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日ゴミ捨てにいく入居者様がいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医・薬局・家族・管理者・ユニットリーダーで月1回のカンファレンスを行っている。必要に応じて受診の必要な方は職員がご家族で付き添いを行っている。	連携する医療機関は、総合病院であり、往診のほか他科の受診が必要な場合は医療機関の所有車による送迎が可能である。その他、利用者の希望により旧来のかかりつけ医への受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の際、状況を伝え、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、ソーシャルワーカーと蜜に相談、情報交換をしながら、早期退院出来るように支援している。また、ご家族とも蜜に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	方針は入居・契約時に重度化した場合の事業者の対応を説明し、ご家族様の同意を得ている。段階により再度医療機関とご家族様とその都度話し合っている。ホームでの看取りはまだない。	重度化した場合の方針は、入居時に説明し、同意を得ている。その後、利用者の状況に変化が見られる場合、家族と医療機関の話し合いで対応を決めている。利用者の入れ替わり等で、現時点での看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。2階のベランダからの滑り台の避難もできる。目の前に公園もあり避難しやすい、近所に3名の職員がいる。 震災以降、注意喚起に努めている。	年に1回消防署立会いの下、避難訓練等を実施しているが、他にも避難、初期消火、通報等の自主訓練を実施している。4月には夜間を想定した避難訓練の計画がある。災害時の水・食料等の備蓄は十分である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇りやプライバシーを考え声掛け一つでも気をつけて対応している。	トイレは小声等で誘導し、入浴は利用者の意向により同性介助の対応をしている。利用者は農家の人が多く、訛りがあり、単に丁寧な言葉遣いではなく、その人に合った呼称・会話で、人格を尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表して、毎日自己決定出来るように選択しやすいように声掛けを行いながら、見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からその人にあった生活スタイル・リズムを把握し、対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択をしたり、化粧品や髭剃りや爪きりや耳掃除の声掛け・介助を行い、洗面所に整容品を置いてある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態をとっている。家事援助に関しても入居者様に出来るだけ切って頂いたり、盛り付けして頂いたりして頂いている。月一度はリクエストに応じ変更。法人からの献立表もありバランスを考えてメニューを決めている。	献立は月に一度利用者のリクエストで決めている。またフロアでホットプレートを使用したり、寿司職人を呼び好きなネタで寿司を握ってもらうなど工夫が見られる。利用者は食事の準備・後片付け等出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には管理栄養士が作成した献立表にのっとりて食事を提供しているが、個々に合わせた栄養摂取や決めやれた時間だけでなく、飲める時にも水分摂取に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや口腔ケアの介助を行っている。口腔と誤嚥性肺炎の因果関係があり、必ず行っている。うがい薬やハミングットや口腔ガーゼなどで口腔内の清潔を行っている。また、毎週訪問歯科健診を行っている。口腔ケアの指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でパターンを把握し、前後にトイレ誘導を行っている。出来るだけオムツにしないようにオムツの人も卒業出来るように試みている。	健康管理表に排泄の時間、色、量等を詳細に記録している。スタッフは記録でパターンを把握しトイレ誘導を行うと共に適宜水分摂取を勧めている。事業所はおむつを卒業し布パンツとなるよう自立への支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように排便コントロールをしている。腹部マッサージや温タオルや水分補給強化し、出来る限り下剤を使用しないように乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をしています。	利用者が少なくとも2日～3日に1回は入浴できるように支援している。午前中、夕食前、夜等を希望する人には、個別の対応をしている。また入浴を希望しない人は、足浴だけにしたり、更衣支援だけにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に生活リズムに合わせた安眠や休息の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関して薬剤師とのカンファレンスが月1回あり細かな副作用・用法も説明を受けています。薬剤師にもその都度アドバイスや注意事項を説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の洗い物・お盆拭き・洗濯物たたみ・掃除・食事づくり・新聞折り・リハビリ・自己オムツ交換・ゴミ捨て・映画鑑賞等本人に合った役割を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとり一人少しでも良いから外の空気を感じられるように声掛けして散歩・買い物に行っています。	利用者個々の意向を聴きながら随時ホーム周辺を散歩したり、コンビニへ出かけている。家族と共に外出する利用者もいる。また外出レクでは葛西水族館、上野動物園、浅草寺、スカイツリー等へ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてご家族様から預かりしている中でご本人と買い物に行かれています。行けない場合は職員が代行して買ってくるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている方も自由に使用している、手紙のやり取りも返送するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや貼り絵や写真をディスプレイしています。衛生的にも気をつけて配慮しています。	ホームのフロアには、テーブル・椅子が配置され、踊り場には木製の長椅子が配置されている。また共用空間の壁面には貼り絵や行事の写真等が掲出されていて、利用者の元気さと木質の温かさが伝わってくる。共用場所は清潔に掃除・整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人によって思い、思いに過ごせるように工夫している。また、共有空間をうまくスペース確保できるようにフロアやエレベーター前の長い椅子や廊下に木製の長椅子を置いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合った部屋の工夫に努めている。各居室にはスプリンクラー・エアコン・クロゼット完備 テレビ・仏壇・ベット・こたつ・布団・カーペット	利用者の居室は、設置しているクロゼット以外はすべて個人の使い慣れたものや好みのものであり、数名がテレビや仏壇を持ちこんでいる等、各居室を個性的で落ち着くように設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にできること・わかることを活かし、できることを行ってもらえるように自立支援している。		